

1 題材名 高学年として【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 4月

2 題材について

児童は、5年生になった4月を、喜びや希望、不安などの様々な気持ちを抱いて迎える。同時に、高学年としてとして学校を動かす一員として自分たちが活躍する様々な場面があることに気付く。年度初めのこの時期に高学年であることを学級全体で話し合い、高学年としての自覚をもって責任を果たそうとする目標をもつことができるようにしたい。また、この活動を通して、一人一人が希望や目標をもち、それぞれの資質や能力を生かしながら、学級の仲間と協力して居がいのある学級作りをしていくことも目指したい。

3 題材の目標

- 学校行事や児童会活動、清掃活動などで自分たちが活躍すべき場や活動の内容について関心をもち、進んで調べ、高学年としての目標をもつとともに、居がいのある学級の在り方について考えようとしている。(関・意・態)
- 学校行事や児童会活動、清掃活動などで自分たちが活躍すべき場や活動について、友達と話し合いながら、高学年としての目標と居がいのある学級作りについて考え、自分の考えを発表することができる。(思・判・実)
- 高学年として自分たちが学校をよくしていくためには、学校行事や児童会活動、清掃活動など、様々な場面で全体のことを考えて活動し、協力していく必要があることが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 学校行事や児童会活動、清掃活動などで、全体のことを考えて活動していく必要があることに気付く、実践しようとする。(実践力)
- ◆ 高学年として自分たちが活躍することが、学校をよくしていくことにつながることを知らせ、5年生としての役割や責任の大切さを伝える。

(4-(3) 役割と責任の自覚)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○) |
|--|--|
| ・ 高学年として必要な仕事の内容や行事での役割等について調べておく。 (休み時間・ふれあいタイム) | ○ 年間行事計画を提示したり、昨年度の5年生の活動の様子を知らせたりして、児童が考えやすいような資料を用意する。 |

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「がんばろう5年生！」

② 活動のねらい 5年生の在り方を考え、自分のめあてをもとう。

| | 児童の活動内容 | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|----|--|---|
| 開始 | 1 調べてきたことをもとに、高学年の仕事や責任について、教師の話聞く。 | ○ 中学年との違いを、年間行事計画を示しながら説明したり、代表委員や通学班の班長などの具体例を挙げて話したりする。 |
| 展開 | 2 調べたり話し合ったりして分かったことや5年生での夢や希望、不安などを発表する。 3 発表し合ったことをもとに、5年生としての在り方を話し合い、目標に書く。 | ○ 様々な気持ちを自由に話し合える雰囲気作りをする。 ○ 自分たちのこれからの役割を自覚し、考えられるようにするために、友達の発表した意見に付け足す意見や反論する意見をつながけながら発表できるよう助言する。 ◇ 5年生としての自分の目標を書くことができたか。 |
| 終末 | 4 5年生としての目標を発表する。 | ○ 目標カードを教室の壁面に掲示し、児童がいつでも確認、振り返りができるようにする。 |

(3) 事後の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|---|--|
| ・ 学校行事や児童会活動などの様々な場面で自分のめあてをもち、活動に取り組む。 (常時活動) | ○ 学校行事や児童会活動などの様々な場面で、児童の活動のよさを見つけ、称賛していく。 ◇ 自分たちの活動によって、学校がよくなっているということに気付いているか。 |

1 題材名 自転車の安全な乗り方【内容(2) 健康・安全(安全)】 **指導の時期** 5月

2 題材について

5年生になると自転車を使って行動する範囲が広がる。すると、自動車とぶつかりそうになったり、軽い接触事故を起こしたりという経験をしている児童も出てくると考えられる。そこで、自転車の正しい乗り方を考えさせ、自分の身の安全を守ることを話し合うことはとても重要である。活動は、児童一人一人がこれまでに自転車に乗っていて遭遇した「ヒヤリ!」「ハッ!」としたことを発表し合い、その中から、危ない場所や自転車の正しい乗り方を理解していく。そして、自転車の安全な乗り方を身に付け、交通マナーを守ることの大切さを理解し、実践していく態度を育てる。

3 題材の目標

- みんなの発表をよく聞いたり、本当に安全な乗り方とは何か話し合ったりしながら、安全意識を高めようとしている。(関・意・態)
- 友達の危なかった体験を聞いて、自転車の安全な乗り方を考え、発表することができ。(思・判・実)
- 自分の危なかった体験を発表したり、友達の危なかった体験を聞いたりして危険な場所や安全な乗り方が分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 話し合い活動では、自分の意見に固執せず、全員が楽しめる活動は何かということを考えながら参加し、どのような活動内容がよいか判断する。(判断力)
- ◆ 自分の自転車の乗り方で危なかった体験を話し合うことを通して、命の大切さを考えさせる。(3-(1) 生命尊重)
- ★ 自転車の安全な利用の仕方を理解し、安全な乗車ができるようにする。(安全指導)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○) |
|--|--|
| ・ 計画委員が学級全員に、自転車に乗っていて危なかった体験を考えておくよう伝える。 (帰りの会等) | ○ 児童からの発表だけでなく、教師側からも危険な場所や安全な乗り方の資料を提供し、計画委員がその使い方を工夫できるようにすることで、具体的な話し合いができるようにする。 |

(2) 本時の活動

- ① **活動テーマ例** 「自転車の安全な乗り方を確認しよう」
- ② **活動のねらい** 自転車に乗るときに気を付ける場所や正しい乗り方を知り、自転車の安全な乗り方を話し合おう。

| | 児童の活動内容 | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|-----------|---|--|
| 開始 | 1 自転車に乗っていて危なかったことを発表する。 2 発表について質問する。 | ○ 危なかったときの周りの状況や様子について、分からなかったことなどを質問するばを計画の段階で設定し、安全な乗り方の話し合いに関心を高める。 |
| 展開 | 3 危なかった原因を考え、話し合う。 ・ 一時停止しなかった。 ・ スピードの出し過ぎ。 ・ 並んで走る。 4 正しい自転車の乗り方について話し合う。 ・ 安全確認の一時停止 ・ 安全な速さ ・ 安全点検 など 5 自分の自転車の乗り方を振り返り、自分のめあてを立てる。 | ○ 考えてきた意見やノートに書いてきたものを発表できていない児童がいれば、発表するよう促す。 ○ 論点がずれたり、話題がそれたりした場合は、今、何を話し合っているか確認させる。 ○ 話し合いで出なかった内容は、教師が補足し、実践しようとする意識をもたせる。 ○ 危ない場所での自転車の乗り方や自転車の点検等、今後の自転車の乗り方に生かせるように、話し合いだけでは足りない部分を補足する。 |
| 終末 | 6 本時の活動を振り返り、教師の話を聞く。 | ◇ 話し合いのめあてを達成することができたか。 |

(3) 事後の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|---|---|
| ・ 普段の自転車の乗り方について確認する。 (朝の会・帰りの会) ・ 交通安全教室 (学校行事) | ○ 自転車の安全な乗り方について適宜指導していくことで、安全に生活しようとする意識を高める。 ◇ 自分の危なかった体験を発表したり、友達の危なかった体験を聞いたりして危険な場所や安全な乗り方が分かったか。 |

1 題材名 歯の健康【内容(2) 健康・安全(体)】 指導の時期 6月

2 題材について

5年生は、これまでの学習や経験から、むし歯になる原因や、歯みがきの大切さをおよそ理解している。また、乳歯から永久歯へ生え変わる(歯が抜ける)という経験をし、永久歯を大切にしなければならないということも分かっている。しかし、その一方で、むし歯に罹患している児童が少なくないのが現状である。ここでは、むし歯の原因やむし歯を防ぐ方法を話し合わせたり、養護教諭の協力を得て専門的な立場から実演や説明、染め出し等をしてもらったりすることで、むし歯予防の意識を高め、健康な歯を保つ意識を高めさせたい。

3 題材の目標

- 自分の歯がどういう状況かについて考えたり、どうしたらむし歯を防げるかについて振り返ったりしながらむし歯予防への興味・関心をもち、積極的にむし歯予防を行おうとする。(関・意・態)
- これまでの学習や養護教諭の説明をもとに、むし歯を防ぐ方法を考えて自分の意見を発表することができる。また、自分のめあてをもとに、むし歯予防を実践することができる。(思・判・実)
- むし歯の原因を知るとともに、予防方法について再確認し、毎日欠かさずブラッシングを行ってむし歯予防に努めることが大切であることが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)

◆ むし歯予防についての話を通して、毎日欠かさずむし歯の予防に努めることが大切であることに気付かせ、健康に留意しながら規則正しい生活が送れるようにさせる。

(1-1) 生活習慣、思慮・反省、節度・節制)

★ 歯の健康について考える活動を通して、生活習慣を見直し、よりよい生活習慣の定着を図る。(保健指導)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○) |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯ブラシの点検をする。(給食等) ・ むし歯の原因を考える。(朝の会・帰りの会等) | ○ これまでの学習やむし歯になったときのこと、むし歯予防に大切なこと等を想起させ、むし歯の原因を事前に考えさせるよう全体に声をかけることで、むし歯に対する関心を高める。 |

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「歯の健康について考えよう」

② 活動のねらい むし歯になる理由やむし歯予防の方法をもう一度おさらいして、むし歯0を目指そう。

| | 児童の活動内容 | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|----|--|--|
| 開始 | 1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、むし歯予防の大切さについて発表する。 2 教師と養護教諭の話聞く。 | ○ むし歯の有無を問いかけるとともに、現在の歯の様子について確認させる。 ○ むし歯がない児童も、むし歯を防ぐ方法を考えることを伝え、課題意識や目的意識をもたせる。 |
| 展開 | 3 むし歯の原因について話し合う。 4 むし歯予防をする上で大切なことを話し合う。 5 間食の方法やブラッシングについて、養護教諭の話聞く。 | ○ 普段の自分の生活を想起させる。 ○ 養護教諭が具体物や資料を提示して、むし歯の原因や間食の摂り方、ブラッシングについて説明することで、児童の理解を深められるようにする。 ○ むし歯の原因や各家庭の実態から、自分の生活に合ったむし歯をなくす方法やむし歯の予防方法を考えさせるようにする。 ◇ 話し合ったことや聞いたことをもとに、むし歯予防の方法を考え、自分の意見を発表することができたか。 |
| 終末 | 6 むし歯予防についての話し合いを振り返り、教師の話聞く。 | ○ むし歯の予防のために今後実践していきたいことを記述させ、実践意欲が高まるようにする。 |

(3) 事後の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のめあてを意識してむし歯予防を行う。(随時) | ○ 授業で用いた資料を提示し、自分のめあてが達成できているか適宜問いかける。 ◇ めあてに沿ってむし歯予防を積極的に行おうとしているか。 |

1 題材名 1 学期の反省【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 7 月

2 題材について

5 年生の児童は児童会活動に参加し、6 年生とともに学校行事にも携わるようになる。そのような学校全体に関わる活動もあり、責任感を強く感じるようになってくる。努力したことや成果、課題などを話し合わせ、1 学期間の自分たちの成長を振り返るとともに、2 学期に向けて生活をよりよくしていこうとする態度を育てたい。

3 題材の目標

- 1 学期の学習や生活について振り返り、努力したことや成果、課題などについて話し合い、2 学期のめあてを考えている。(関・意・態)
- 1 学期の学習や生活を振り返り、努力したことや成果、課題を発表することができ(思・判・実)る。
- 1 学期の反省をもとに 2 学期のめあてを立てることを通して、課題意識をもって生活をよりよくしていこうとするものの大切さが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)

★ 振り返りと新たなめあてによって、生活が少しずつ向上していくことに気付かせ、近い将来を設計していくものの大切さや必要性に気付く。(キャリア教育)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○) |
|--------------------------------|---|
| ・ 「自分につける通知表」に取り組む。 (帰りの会等) | ○ 1 学期の生活を振り返らせ、どのような生活を送ってきたかについて、うれしかったことや楽しかったこと、大変だったことを中心に記述させる。 |

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「1 学期を振り返ろう」

② 活動のねらい 1 学期の生活を思い出し、自分をさらに伸ばすめあてを考えよう。

| | 児童の活動内容 | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|----|--|---|
| 開始 | 1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、1 学期の生活について話し合う。 | ○ 学習や生活の様子を想起できない児童には、学校行事や学年行事等の様子を伝え、想起できるよう支援する。 |
| | 2 教師の話聞く。 | ○ 1 学期の生活に改善点がない児童にも、課題意識や目的意識をもたせる声かけをする。 |
| 展開 | 3 2 学期にどのように生活していきたいか話し合う。 | ○ 校訓「かしこく、なかよく、たくましく」にもとづいて考えさせる。 |
| | 4 2 学期のめあてを記述する。 | ○ 1 学期のめあてで達成できなかったものは、2 学期に継続してもよいことを伝える。 |
| | 5 記述したことを発表する。 | ◇ 1 学期の生活について振り返り、2 学期のめあてを立てることができたか。 |
| 終末 | 6 教師の話聞く。 | ○ めあてが書けたことや発表したことを称賛し、2 学期の学校生活への意欲を高める。 |

(3) 事後の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|-----------------------------------|---|
| ・ 自分の振り返りとめあてを意識して生活する。 (常時活動) | ○ めあてを掲示し、めあてが達成できているか適宜問いかける。 ◇ めあてに沿って生活しようとしているか。 |

1 題材名 夏休みの生活【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 7月

2 題材について

夏季休業は、5年生の児童にとって楽しみであると同時に、課題等に計画的に取り組まなければならないという大変さもある。保護者には、学年懇談会や学年だより等で理解と協力を呼びかけるが、児童自身にも、自分に合った計画を立てて取り組むことの大切さを理解させたり、やり遂げた達成感を味わわせたりすることが重要である。

そこで、夏季休業中の生活、学習の仕方等を取り上げ、どのような計画を立て、過ごしていけばよいかを考えさせることで、充実した夏季休業にしていこうとする意欲を育てたい。

3 題材の目標

- 夏季休業中の学習や生活について、自分に合った計画を立てたりめあてを考えたりしている。 (関・意・態)
- 夏季休業中の学習や生活について、望ましい生活リズムや学習計画を知り、自分に合った計画を立てたり、めあてを考えたりすることができる。 (思・判・実)
- 夏季休業中の学習や生活について、計画的に取り組むことの大切さが分かる。 (知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)

◆ 自分で立てた計画やめあてを意識することによって、望ましい生活習慣について考え、節度ある生活を送ろうとする態度を育てる。

(1-(1) 生活習慣、思慮・反省、節度・節制)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○) |
|-----------------------------------|--|
| ・ 夏休みの計画表に、夏季休業中の予定を記入する。 (家庭) | ○ 学年懇談会や学年だよりで、夏季休業を計画的に過ごすことの大切さを保護者に説明し、協力を得られるよう配慮する。 |

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「充実した夏休みにしよう」

② 活動のねらい 夏休みを楽しく過ごすための計画を立てよう。

| | 児童の活動内容 | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|----|---|---|
| 開始 | 1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、夏休みの生活について、教師の話聞く。 | ○ 項目を分けて、分かりやすく説明する。 (例)健康な生活について 安全な生活について 計画的な学習について |
| 展開 | 2 夏休みのめあてを立てる。 3 夏休みの学習計画を立てる。 4 記述したことを発表する。 | ○ 少し努力して取り組めるめあて、計画を立てさせる。 ○ 家族行事や育成会行事等にも進んで参加するよう話す。 ◇ 計画的に過ごすことの大切さを理解し、夏休みの計画を立てているか。 |
| 終末 | 5 教師の話聞く。 | ○ 夏季休業の過ごし方の大切さを説明し、夏季休業の生活への意欲を高める。 |

(3) 事後の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|----------------------------------|--|
| ・ 計画やめあてを意識して夏休みの生活を送る。 (夏休み) | ○ 計画的に生活することが困難な児童、家庭には、連絡を取り、話を聞く。 ◇ 計画的に夏季休業を過ごすことができたか。 (課題、日記等の提出状況) |

1 題材名 5年〇組のよさ【内容(2) 人間関係】 指導の時期 9月

2 題材について

2学期にもなると新しい学級にも慣れていろいろな友達ができ、学級としての雰囲気が出てくる。そこで、この時期に自分たちの学級について改めて目を向け、そのよさを中心に話し合うことにより、よりよい学級にしていこうとする意欲や態度を育てていきたい。

3 題材の目標

- 5年〇組のよさや問題点などについて進んで意見を発表し、よりよい学級を作っていこうとしている。(関・意・態)
- よりよい学級作りのアイディアを考えたり、自分たちでできることを話し合ったりして、実践していこうとすることができる。(思・判・実)
- みんなが楽しく過ごせるような学級作りをしていくことの大切さが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 学級の長所や短所を話し合う活動を通して、よりよい学級作りのための方法を考えようとする。(実践力)
- ◆ 友達とも慣れ、集団作りの充実を図っていくために、学級のよさや問題点を自分たちで考え、よりよい学級を作っていこうとする心情を養う。また、具体的な活動を行うことで互いに協力し合い、よりよい人間関係を作れるようにする。
(2-(3) 友情・信頼、助け合い)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○) |
|---|--|
| ・ 計画委員が学級全員に、5年〇組のよさと問題点を考えておくよう伝える。 (帰りの会等) | ○ 自分たちの学級を、さらによくしていくための活動であることを意識付けさせるようにする。 |

(2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「5年〇組をもっとよくしよう！」
- ② 活動のねらい 5年〇組のよさや問題点を話し合い、よりよい学級を作るアイディアを出し合おう。

| | 児童の活動内容 | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|----|--|---|
| 開始 | 1 自分たちの学級の様子について、教師の話を聞く。 | ○ 自分たちの学級をよりよくしていくための活動であることを意識付けさせるようにする。 |
| 展開 | 2 考えてきた自分の学級のよさや問題点を発表する。 ・ 進んで働く 3 学級をもっとよくするためにこれから気を付けたいこと、していきたいことを話し合う。 4 自分たちで実践できそうなことをまとめる。 | ○ 考えてきた意見やノートに書いてきたものを発表できていない児童がいれば、発表するよう促す。 ○ 互いの意見のよさに触れることにより、学級の雰囲気を高めていく。 ○ 学級生活を楽しく充実したものにするために、自分たちでできることを話し合い、実践化させるようにする。 ◇ 学級のよさや問題点を考え、その解決策等について発表しているか。 |
| 終末 | 5 本時の活動を振り返り、教師の話を聞く。 | ◇ 話し合いのめあてを達成することができたか。 |

(3) 事後の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|-------------------------------|---|
| ・ 本時の活動をもとに、係活動や普段の生活の中で実践する。 | ○ 係活動や普段の生活の中で、話し合いの内容にあった場面を見つけて称賛する。 ◇ よりよい学級作りのために自分たちでできることを実践しているか。 |

1 題材名 学校図書館の利用【内容(2) 学校図書館】 指導の時期 10月

2 題材について

読書について、荒川小学校では、月曜日と木曜日の朝の学習として読書の時間を取り入れたり、校内読書週間を設け読書を促したり、南那須図書館と連携して巡回図書館を定期的に実施したりし、児童に読書の大切さや面白さを伝える取り組みを行っている。朝の学習や新しい本が入ったときには、進んで本を読む児童は多いが、定期的に読書している児童は少ない。また、委員会活動を通して、読書を推進している児童がいるが、何名かにとどまっている。今回の題材では、自分のお気に入りの本の帯を作り、おすすめの本について紹介し、さらに児童たちの読書の意欲を高めたい。今までに読んだことのなかった本や、新しい分野の本に触れる機会を通して、読書の幅を広げたり、読書への関心を高め、進んで読書をする態度を育てていきたい。

3 題材の目標

- おすすめの本を紹介するために、進んで本を読んだり、本の帯を作ったりしている。
(関・意・態)
- 本の内容をもとに帯を作成し、おすすめの本を紹介することができる。
(思・判・実)
- 本を読んだり、本を紹介する活動を通して、読書する楽しさや大切さが分かる。
(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 本を紹介する活動を通して、今までに読んだことのなかった本や、新しい分野の本にも興味・関心をもち、発表を認め合いながら話を聞こうとする態度を養う。
(実践力)

◆ 様々な分野の本に触れることで、読書への意欲を高め、内容を通して心情を読み取ったり考えたりし、相手への思いやりの気持ちをもち、育てる。
(2-(2) 思いやり・親切)

★ 本に親しみ、読書に楽しさや喜びを味わわせ、豊かな心情を育てる。
(学校図書館教育)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○) |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 本を読み、おすすめの本を見つけておく。 ・ おすすめの本について帯を作成しておく。 (朝の学習・ふれあいタイム) | <ul style="list-style-type: none"> ○ 実際の本の帯をいくつか準備し、児童が参考にできるようにしておく。 ○ 本の帯にポイントをまとめたり、絵を入れたりして、読み手が引きつけられるような工夫をするよう声をかける。 |

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「おすすめの本は？」

② 活動のねらい 作成した帯を使い、おすすめの本を紹介することができる。

| | 児童の活動内容 | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|----|--|--|
| 開始 | 1 一人ずつ、おすすめの本を紹介していくことを説明する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 書画カメラを準備し、本や帯を拡大して提示する。 ○ 最後に感想を伝える機会があることを説明し、発表の聞き方について指導する。 |
| 展開 | 2 おすすめの本を紹介し合う。 3 紹介に対して、感想を伝え合う。 4 本と帯を教室に掲示する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 実際の本や作成した帯を提示しながら発表するよう指示する。 ○ 帯に書いた内容や絵に理由をつけながら発表するなど、様々な紹介の仕方があることを伝える。 ◇ おすすめの本を紹介したり、紹介を聞いた感想を友達に伝えることができる。 |
| 終末 | 5 本時の活動内容をふり返り、感想を発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の活動内容を振り返り、感想を記入させる。 ◇ 本時の活動について感想を記入したり、気になった本の名前を書いたりしている。 |

(3) 事後の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動後に掲示した帯や本を見て、進んで読書する。 (常時活動) | <ul style="list-style-type: none"> ○ 図書室でも帯と本と一緒に掲示し、全校生の目にも触れる機会を作ること、活動への達成感を感じさせる。 ○ 読書の記録を活用し、読んだ本の記録を目に見える形で残しておくように伝える。 |

1 題材名 臨海自然教室【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 5月

2 題材について

臨海自然教室のバスの中や各部屋の中での時間の過ごし方は、臨海自然教室をより楽しくするために必要である。宿泊を伴う学習は、児童にとって今回で2回目であり、活動をとてもし楽しみにしている児童が多くいる。今回、様々な活動の中でも、バスの中の時間の計画を立てることを通して、友達と協力する大切さや、みんなが楽しめる活動を考える創意工夫の力をつけていけるようにしたい。

3 題材の目標

- バスの中での活動を考えたり、みんなが楽しめる活動を提案したりして、意欲的に参加しようとする。(関・意・態)
- 限られた時間や場所を考慮し、活動のルールを工夫したり、みんなが楽しめる活動を計画することができる。(思・判・実)
- バスの中で行う活動であるため、できることに限りがあり、安全面にも気を付けながら計画を立てることができる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 自分の考えやアイディアにこだわるのではなく、様々な意見を取り入れ、みんなが楽しめるような活動を考え、実践していこうとする。(実践力)
- ◆ みんなが楽しめる活動を考えたり、計画を立てたりすることで、友達と協力する大切さや相手のことを考える思いやりの気持ちを育てる。(2-(2) 思いやり・親切)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○) |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ バスの座席と活動班を決めておく。 ・ バスの中での活動について考えておく。(休み時間・ふれあいタイム) | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の意見を聞きながら、バスの座席や活動班を決めておく。 ○ バスの中でのレクレーションに関する資料を教室に置き、児童が考えをもちやすくする。 |

(2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「臨海自然教室のバスの中の時間を楽しくしよう」
- ② 活動のねらい 臨海自然教室のバスの中を楽しく過ごすための計画を立てよう。

| | 児童の活動内容 | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|----|--|---|
| 開始 | 1 臨海自然教室についての概要を教師から聞く。 | ○ 臨海自然教室を行う目的や、活動内容を説明し、意欲を高める。 |
| 展開 | 2 バスの中での決まりや時間を確認する。 3 バスの中で行う活動について発表し合う。 4 活動班ごとに分かれ、さらに詳しい内容について話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ バスの中での細かな決まりや時間を確認し、マナーを守る大切さに気付かせる。 ○ これまでの遠足などの活動を想起させ、どんなことに気を付け、何をしたらみんなが楽しいのかを具体的に考えられるようにする。 ○ 準備物や時間など、活動に必要なことを確認することで、活動を実施できるように方向づける。 ◇ みんなが楽しめる活動を、友達の意見を取り入れたり、協力したりしながら考えることができたか。 |
| 終末 | 5 決まったこと、これから必要なことをノートに書く。 | ○ 意欲的に話し合いが進められたことを称賛し、臨海自然教室に向けての準備について助言する。 |

(3) 事後の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨海自然教室に向けて、活動班ごとに準備を進め、当日にレクレーションを実施する。(ふれあいタイム・臨海自然教室) | <ul style="list-style-type: none"> ○ レクレーションに必要な時間や準備物を児童と話し合い、できるだけ確保する。 ◇ バスの中で、友達と協力してレクレーションを実施し、楽しく過ごすことができたか。 |

1 題材名 食事への関心【内容(2) 給食・食習慣】 指導の時期 1 1 月

2 題材について

5年生から家庭科の授業が始まり、食品の栄養素や体に与える影響などについても学習している。しかし、普段の給食に対しては、健康な体を作り、維持するために食事を摂るという意識があまり見られない。そこで、改めて健康な体を作るための食事や栄養という面から見直しをして、自分の健康を考えた給食の摂り方についての意識を高めるとともに、楽しく会食をするための工夫を考えるようにさせたい。

3 題材の目標

- 自分の体の健康を維持するために、進んで友達と協力し合って栄養について調べたり、楽しい会食のための工夫を考えたりしている。(関・意・態)
- 自分の健康を考えた給食の摂り方や、楽しく会食をするための工夫などを考えることができる。(思・判・実)
- 栄養のバランスを考えて作られている給食を、できるだけ好き嫌いなく摂ることが大切であることが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◆ 健康な体作りのための食事の在り方を考えることで、日常の自分の生活を見直す機会とし、健康に生活するための望ましい生活習慣を身に付けられるようにする。(1-(1)生活習慣、思慮・反省、節度・節制)
- ★ 健康な体を作り、維持するための食事や栄養について考える活動を通して、正しい食事の在り方と望ましい食習慣を身に付ける。(食に関する指導)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○) |
|--|---|
| ・ 計画委員が健康な体になるために必要な栄養素を調べておくよう連絡する。(帰りの会) | ○ 家庭科の学習の成果を生かしたり、家庭科の先生に聞いて調べたりするよう助言する。 |

(2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「食事の栄養バランスを考えよう」
- ② 活動のねらい 健康な体を作り、健康な体を守るための給食の摂り方や楽しく会食するための工夫を考えよう。

| | 児童の活動内容 | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|----|--|--|
| 開始 | 1 食事(給食)の楽しさや必要性について教師の話聞く。 | ○ 給食のおいしさの面だけでなく、栄養の面を中心に考えていくことを確認する。 |
| 展開 | 2 「健康な体になるために必要な栄養素を調べたこと」を発表する。 ・ 野菜を食べる。 ・ 好き嫌いをしない。 3 自分たちの給食の様子(よく食べるもの、残すもの)、を振り返り、健康な体を作るために気を付けることを話し合う。 4 楽しく会食するための工夫をまとめる。 | ○ 調べてきたものを発表できていない児童がいれば、発表するよう促す。 ○ 嫌いなものを無理やり食べるのではなく、体に必要な栄養を中心に考え、今までの食べ方を少しでも改善するという方向で話し合う合わせる。 ○ エチケットを守るという点についても、意識を向けさせるようにしたい。 ◇ 給食の摂り方について、自分なりの考えを発表することができたか。 |
| 終末 | 5 本時の活動を振り返り、教師の話聞く。 | ◇ 話合いのめあてを達成することができたか。 |

(3) 事後の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|-----------------------------------|--|
| ・ 本時の話合いをもとに、各自が給食の時間の中で実践する。(給食) | ○ 給食時や朝の会、帰りの会等で実践の様子について話題として取り上げ、意識の継続化を図るようにする。 |

1 題材名 2 学期の反省【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 1 2 月

2 題材について

高学年となり、学級、学年単位での活動だけでなく、6年生と共に学校のために活動する機会も増えてきた。委員会活動等を通して、学校を運営していく達成感や充実感を感じながら、下級生のお手本としての自覚をもって、学校生活を送っていると言える。そこで、2学期の活動や、自分たちの成長を確かめながら今学期を振り返り、3学期へ向けてさらに自分を伸ばしていきたいという意欲を高めさせたい。

3 題材の目標

- 2学期の学習や生活について振り返り、自分の成長を実感し、さらに自分の高めたいところや学校のために取り組みたいことを考えようとする。(関・意・態)
- 2学期の学習や生活について振り返り、自分や学校のために3学期さらに伸ばしていきたいところを考えることができる。(思・判・実)
- 2学期の反省をもとに3学期の学校生活について考える活動を通して、めあてをもって努力することや実践することの大切さが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)

★ 振り返りと新たなめあてによって、生活が少しずつ向上していくことに気付かせ、近い将来を設計していくことの大切さや必要性に気付く。(キャリア教育)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○) |
|------------------------------------|---|
| ・ 「自分につける通知表」に 取り組む。 (帰りの会等) | ○ 2学期の生活を振り返らせ、どのような生活を送ってきたかについて、楽しかったことやがんばったこと、大変だったことを中心に記述させる。 |

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「2学期を振り返ろう」

② 活動のねらい 2学期の生活を思い出し、自分をさらに伸ばすめあてを考えよう。

| | 児童の活動内容 | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|----|---|---|
| 開始 | 1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、2学期の生活について振り返る。 | ○ 学習や生活の様子を想起できない児童には、学校行事や学年行事等の様子を伝え、想起できるよう支援する。 |
| | 2 教師の話聞く。 | ○ 2学期の生活に改善点がない児童にも、課題意識や目的意識をもたせる声かけをする。 |
| 展開 | 3 3学期にどのように生活していきたいか話し合う。 | ○ 校訓「かしこく、なかよく、たくましく」に基づいて考えさせる。 |
| | 4 3学期のめあてを記述する。 | ○ 2学期のめあてで達成できなかったものは、3学期に継続してもよいことを伝える。 |
| | 5 記述したことを発表する。 | ◇ 2学期の生活について振り返り、3学期のめあてを立てることができたか。 |
| 終末 | 6 教師の話聞く。 | ○ めあてが書けたことや発表したことを称賛し、3学期の学校生活への意欲を高める。 |

(3) 事後の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|-----------------------------------|---|
| ・ 自分の振り返りとめあてを意識して生活する。 (常時活動) | ○ めあてを掲示し、めあてが達成できているか適宜問いかける。 ◇ めあてに沿って生活しようとしているか。 |

1 題材名 冬休みの生活【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 12月

2 題材について

小学校の長期休業を何度か経験し、休業中の過ごし方について十分理解し、規則正しく生活しようとする意識が備わっている。高学年として責任のある行動ができるよう、休業中の学習や生活の仕方について児童自らが考え、やり遂げる達成感を味わわせる。本題材は、冬季休業中の生活、学習の仕方等を取り上げ、夏季休業で学んだことを生かして、どのように計画を立て、過ごしていけばよいかを考えさせる。そして、冬季休業をよりよいものにしていく意欲を育てたい。

3 題材の目標

- 冬季休業中の学習や生活について、進んで計画を立てたりめあてを考えたりしようとする。 (関・意・態)
- 冬季休業中の学習や生活について、望ましい生活リズムや学習計画について考え、計画を立てたり、めあてを記入したりすることができる。 (思・判・実)
- 冬季休業中の学習や生活について、計画を立てて取り組むことの大切さを知る。 (知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)
- ◆ 自分で立てた計画やめあてを意識することによって、望ましい生活習慣について考え、節度ある生活を送ろうとする態度を育てる。
(1-1) 生活習慣、思慮・反省、節度・節制)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○) |
|-----------------------------------|--|
| ・ 冬休みの計画表に、冬季休業中の予定を記入する。 (家庭) | ○ 学年懇談会や学年だよりで、夏季休業を計画的に過ごすことの大切さを保護者に説明し、協力を得られるよう配慮する。 |

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「充実した冬休みにしよう」

② 活動のねらい 冬休みを楽しく過ごすための計画を立てよう。

| | 児童の活動内容 | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|----|---|---|
| 開始 | 1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、冬休みの生活について、教師の話聞く。 | ○ 項目を分けて、分かりやすく説明する。 (例)健康な生活について 安全な生活について 計画的な学習について |
| 展開 | 2 冬休みのめあてを立てる。 3 冬休みの学習計画を立てる。 4 記述したことを発表する。 | ○ 無理なく取り組めるめあて、計画を立てさせる。 ○ 家族行事や育成会行事等にも進んで参加するよう話す。 ◇ 計画的に過ごすことの大切さを理解し、冬休みの計画を立てているか。 |
| 終末 | 5 教師の話聞く。 | ○ 冬季休業の過ごし方の大切さを説明し、冬季休業の生活への意欲を高める。 |

(3) 事後の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|----------------------------------|--|
| ・ 計画やめあてを意識して冬休みの生活を送る。 (冬休み) | ○ 計画的に生活することが困難な児童、家庭には、連絡を取り、話を聞く。 ◇ 計画的に冬季休業を過ごすことができたか。 (課題、日記等の提出状況) |

1 題材名 相手の気持ちを考えた言葉遣い【内容(2) 生活習慣】

指導の時期 1月

2 題材について

この時期の5年生は、慣れ親しんだ学級の人間関係の中で、学校生活を過ごしている。それは同時に、言葉遣いの丁寧さを欠く関係につながっているともいえる。テレビの影響もあり、強い口調での会話がなされることも多い。思春期を迎えた子どもたちは、ちょっとした言葉の行き違いや表現の雑さにより、深く落ち込み、人間関係を崩してしまうこともある。また、放っておけば崩れてしまう公正公平な教室の雰囲気、対等な人間関係を保つためにも、本題材を通じて、言葉遣いを大切にしようとする意識を育てたい。

3 題材の目標

- 学級の中での言葉遣いの在り方について関心をもち、人の気持ちを考えた言葉遣いを学級のみんなで大切にしていこうとする話し合いに進んで参加しようとしている。
(関・意・態)
- 学級の中での言葉遣いの在り方を考え、人の気持ちを思いやる言葉遣いを学級のみんなで大切にしていこうする方法について、自分の意見を発表することができる。
(思・判・実)
- 公正公平かつ対等な人間関係を保つ学級にするためには、一人一人が人の気持ちを考えた言葉遣いをしていくことが大切であるということが分かる。
(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 温かい人間関係を築くためにはどのような言葉遣いをしたらよいかを考え、話し合いの中で出てきた言葉をつかっていこうとする。(実践力)
- ◆ 学級や学校の仲間との間で交わされる言葉遣いの大切さについて考え、互いの気持ちを考えて話すことの大切さを実感させる。(2-(2) 友情・信頼、助け合い)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○) |
|---|--|
| ・ 言葉遣いについてのアンケートに回答し、計画委員は集計する。 (帰りの会) | ○ これまでの学校生活を思い出しながら、言葉遣いについて改善したいところを書き出すよう助言し、話し合いの内容の焦点化を図る。 |

(2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「その言葉づかいって大丈夫？」
- ② 活動のねらい 学級の友達と心地よく過ごし、これからもよい関係でいることのできる言葉遣いについて話し合おう。

| | 児童の活動内容 | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|----|---|---|
| 開始 | 1 司会は、今日の活動テーマを確認する。 2 「人の気持ちを考えた言葉遣い」について、教師の話聞く。 | ○ 人の気持ちを考えた丁寧な言葉遣いというものは、公正公平を大切にし、みんなが健やかに対等に過ごす学校生活に不可欠なものであることを話し、本時の話し合いへの意欲付けを図る。 |
| 展開 | 3 学級の中で見られる言葉遣いの問題点について、発表する。 4 問題点の解決策や改善策を話し合う。 5 発表をもとに、今後学級での言葉遣いについて、大切にしていきたいことを話し合う。 | ○ 隣の席の児童と話をさせたり、近くの席の児童と話をさせたりして、自分の思いを表出させる場を作る。 ○ 実現可能な策であること、みんなが意識して取り組めばよい方向へ向かう策であることなど、自分たちでできることを話し合う。 ◇ 公正公平かつ対等な人間関係を保つ学級にするためには、一人一人が人の気持ちを考えた言葉遣いをしていくことが大切であるということを理解し、考えているか。 |
| 終末 | 6 本時の活動を振り返り、教師の話聞く。 | ○ 話し合った内容を今後の生活に生かし、継続していくことが必要であることを話し、本時の話し合いでの課題意識を継続してもつことができるようにする。 |

(3) 事後の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|-------------------------------|--|
| ・ 自分のめあてを明確にして実践する。 (常時活動) | ○ 自己評価をもとに、言葉遣いの改善策を考え、日常生活で実践していけるよう助言する。 ◇ 自分のめあてをもとに、人の気持ちを考えた言葉遣いを実践できているか自己評価する。 |

1 題材名 6年生になったら【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 2月

2 題材について

4月から最高学年になる5年生は、荒川小学校の顔として、様々な学校行事や対外的な行事に参加することとある。また、校内では、1年生から5年生のまとめ役として、縦割り班の班長、委員会活動の委員長、クラブ活動のクラブ長など、リーダーとして活動する機会が多くなる。この題材では、それらの活動に責任感と自覚をもって取り組み、荒川小学校をよりよい学校にするために頑張りたいという意欲を育てたい。

そこで、本題材では、6年生の学習や生活の様子について教師の話を聞いたり、6年生にインタビュー調査やアンケート調査をしたりする活動を通して、児童が来年度の学校生活の見通しをもてるような指導を行う。

3 題材の目標

- 最高学年としての学習や生活の望ましい在り方について、進んで話し合ったり調べたりしようとする。 (関・意・態)
- 最高学年としての学習や生活について、望ましい在り方を考え、めあてを書いたり発表したりすることができる。 (思・判・実)
- 最高学年としての学習や生活について、責任感と自覚をもって生活していくことの必要性に気付き、高学年としての役割が分かる。 (知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 1年間の生活を振り返ったり、上級生の生活の様子をしつたりして、来年度の自分のめあてを立てることができる。(技能)
- ◆ 来年度の生活を考える事を通して、生活の見通しをもち、よりよく生活していこうとする態度を育てる。(1-(2) 希望、勇気、不撓不屈)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○) |
|--|---|
| ・ 6年生にインタビュー調査をしたりアンケート調査をしたりする。 (休み時間) | ○ 事前に6学年担任と打ち合わせをし、6年生になってうれしかったことや大変だったことを6年生児童に考えさせておく。 |

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「もうすぐ最上級生」

② 活動のねらい 6年生に進級する心がまえをもとう。

| | 児童の活動内容 | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|----|--|--|
| 開始 | 1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、教師の話を聞く。 | ○ 6年生に進級することの意味や、生活や学習の変化について、児童が意欲をもち、安心して考えられるよう話をする。 |
| 展開 | 2 インタビュー調査の結果を発表する。 3 アンケート調査の結果を聞く。 4 活動を通して考えた来年度の目標やめあてを発表する。 | ○ 発表の仕方を型で示す。 (例)○○について□□さんに話を聞きました。すると、… ○ 調査の結果を、項目を分けて説明する。 (例)生活について 学習について 委員会活動について うれしかったこと・大変だったこと ◇ 調査や話合いの結果から、来年度に向けて見通しもち、意欲的に学校生活を送ろうとしているか。 |
| 終末 | 5 教師の話を聞く。 | ○ 話合いを振り返り、進級への意欲を高める。 |

(3) 事後の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|----------------------------|--|
| ・ 希望をもって学校生活を送る。 (常時活動) | ○ 調査の結果を掲示して、進級への意欲を維持できるようにする。 ◇ 意欲をもって学校生活を送ることができたか。 (常時活動) |

1 題材名 3 学期の反省【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 3 月

2 題材について

今年から高学年となり、様々な場面で下級生のお手本となる機会が多くあった。毎日の授業や学校行事では、常に高学年としての意識をもち、真剣に一生懸命取り組んできた。「6年生を送る会」では、初めて、学校の中で1番上の立場に立って、会を成功させようと話し合いや準備に取り組んできた。そのような経験を通して、現在の5年生は、自信をもって学校生活に臨んでいると考えられる。そこで、1年間の活動や自分たちの成長を確かめながら3学期を振り返り、6年生への進級に向けてさらに自分を伸ばしていきたいという意欲を高めさせたい。

3 題材の目標

- 学級の話し合いの中で1年間の活動を振り返り、よかったことや今後改善していきたいことを考え、個人や学級の来年度のめあてとを考えようとする。(関・意・態)
- 3学期の学習や生活を振り返り、自分の長所や短所を考え、来年度さらに伸ばしていきたいところを考え、実行に向けて活動している。(思・判・実)
- めあてを立てて努力することや実践していく大切さが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)

★ 振り返りと新たなめあてによって、生活が少しずつ向上していくことに気付かせ、近い将来を設計していくことの大切さや必要性に気付く。(キャリア教育)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○) |
|--------------------------------|---|
| ・ 「自分につける通知表」に取り組む。 (帰りの会等) | ○ 3学期の生活を振り返らせ、楽しかったことや頑張ったこと、大変だったことを中心に記述させる。 |

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「3学期を振り返ろう」

② 活動のねらい 1年間の生活と3学期の生活を思い出し、自分をさらに伸ばすめあてを考えよう。

| | 児童の活動内容 | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|----|--|--|
| 開始 | 1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、3学期の生活について振り返る。 2 教師の話聞く。 | ○ 月ごとにあったの行事や写真を示すことで、児童から頑張ったことや大変だったことを引き出す。 ○ 長所や短所を引き出すことで、具体的なめあてを立てることにつなげる。 ○ 3学期の生活に改善点がない児童にも、課題意識や目的意識をもたせる声かけをする。 |
| 展開 | 3 来年度はどのように生活していきたいか話し合う。 4 来年度のめあてを記述する。 5 記述したことを発表する。 | ○ 今年度の振り返りと共に、来年度の行事などを伝えることで、具体的なめあてを立てられるようにする。 ○ 校訓「かしこく、なかよく、たくましく」にもとづいて考えさせる。 ○ 3学期のめあてで達成できなかったものは、来年度に継続してもよいことを伝える。 ○ 個人や学級で頑張ることを意識させ、継続して続けられるようなめあてにつなげる。 ◇ 3学期の生活について振り返り、来年度のめあてを立てることができたか。 |
| 終末 | 6 教師の話聞く。 | ○ めあてが書けたことや発表したことを称賛し、来年度の学校生活への意欲を高める。 |

(3) 事後の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|-----------------------------------|---|
| ・ 自分の振り返りとめあてを意識して生活する。 (常時活動) | ○ 来年度の生活について、進級を意識した言葉をかける。 ◇ 振り返りをもとに立てためあてに沿って生活しようとしているか。 |

1 題材名 最上級生に向けて【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 3月

2 題材について

学年末・学年始休業は今年度の振り返りと共に進級への意識、次年度の学校生活の意欲を高める重要な時間である。これまでの長期休業の過ごし方で学んできたことを活かし、保護者の協力を得ながら充実した春休みを過ごすことで、児童にやり遂げる達成感や次年度も頑張りたいという意欲を味わわせたい。来年度には、6年生となり、最高学年として活躍する場面も増えるため、今年度の振り返りと共に、次年度の意識を高めていきたい。そこで、本題材は、学年末・学年始休業中の生活、学習の仕方等を取り上げ、長期休業で学んだことを生かして、どのように計画を立て、過ごしていけばよいかを考えさせる。そして、学年末・学年始休業をよりよいものにし、進級に向けて頑張ろうとする意欲を育てたい。

3 題材の目標

- 学年末・学年始休業中の学習や生活について、これまでの長期休業中に学んだことを振り返り、来年度を意識して、進んで計画を立てたり、めあてを考えたりしようとする。(関・意・態)
- 学年末・学年始休業中の学習や生活について、自ら望ましい生活リズムや学習計画を考え、実行できる計画を立てたり、めあてを記入したりすることができる。(思・判・実)
- 学年末・学年始休業中の学習や生活について、計画を立てたり、計画的に取り組むことの大切さを知る。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)
- ◆ 計画を立て、自分で立てためあてを意識することによって、節度ある、自立した生活を送ろうとする態度を育てる。(1-(1) 生活習慣、思慮・反省、節度・節制)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○) |
|--|---|
| ・ 春休みの計画表に、学年末・学年始休業中の予定を記入する。 (家庭) | ○ 学年だよりで、学年末・学年始休業を計画的に過ごすことの大切さを保護者に説明し、協力を得られるよう配慮する。 |

(2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「充実した春休みにしよう」
② 活動のねらい 春休みを楽しく過ごすための計画を立てよう。

| | 児童の活動内容 | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|----|--|---|
| 開始 | 1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、春休みの生活について、教師の話聞く。 | ○ これまでの春休みの過ごし方を想起させる。 ○ 項目を分けて、分かりやすく説明する。 (例)健康な生活について 安全な生活について 計画的な学習について ○ 来年度を意識できるような声かけをする。 ○ 具体的な内容でめあてを立てさせる。 |
| 展開 | 2 春休みのめあてを立てる。 3 春休みの生活や学習計画を立てる。 4 記述したことを発表する。 | ○ 見直しをさせ、実行可能な計画を立てさせる。 ○ 家族行事や育成会行事等にも進んで参加するよう話す。 ○ 責任をもって行うこと(家事や手伝い)を決めさせる。 ◇ 計画的に過ごすことの大切さを理解し、望ましい春休みの計画を立てているか。 |
| 終末 | 5 教師の話聞く。 | ○ 学年末・学年始休業の過ごし方の大切さを説明し、学年末・学年始休業の生活への意欲を高める。 ○ 最高学年としての自覚をもつよう話をする。 |

(3) 事後の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|----------------------------------|---|
| ・ 計画やめあてを意識して春休みの生活を送る。 (春休み) | ○ 計画的に生活することが困難な児童、家庭には、連絡を取り、話を聞く。 ◇ 計画的に学年末・学年始休業を過ごすことができたか。 (課題、日記等の提出状況) |

1 題材名 性被害の予防 【内容(2) 健康・安全(体)】 指導の時期 1 1 月

2 題材について

誘拐や性的ないたずらは、小さな子どもたちが犠牲になることが多く、子どもの被害が後を絶たない。このような被害を未然に防ぐには、繰り返し学習することにより、予測能力を育て自分を守る力を身に付けていくことが大切である。ここでは、具体的な心構えや対処法など、危険から自分を守る意識を高めていきたい。

3 題材の目標

- 性被害防止について関心をもち、被害を防ぐため意欲的に考え、発表しようとしている。 (関・意・態)
- 性的な被害から自分を守る方法を考えることができる。 (思・判・実)
- 危険から自分を守る意識が高め、性的な被害に遭わないための方法がわかる。 (知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 性被害に遭わないためにはどのようなことに気を付ければよいかが分かり、安全な行動のしかたを判断する。(判断力)

◆ 性被害防止に対する関心を高め、安全に留意しながら生活を送れるようにさせる。(1-(1) 思慮・節度・節制・自立)

★ 性被害について理解を深めることを通して、安全に行動できる態度を養う。(安全指導)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○) |
|-----------------------------------|---------------------------------------|
| ・ 性被害に関するアンケートをとる。 (朝の会・帰りの会等) | ○ 性被害について事前に考えさせることで、性被害防止に対する関心を高める。 |

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「性被害について考えよう」

② 活動のねらい 誘拐や性被害にあわないためにはどうしたらよいか考えよう。

| | 児童の活動内容 | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|----|---|---|
| 開始 | 1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、新聞などから関連する事件などを紹介する。 | ○ 性被害について知っていることを聞き、あまり出ない時には、新聞記事や調査結果などを紹介する。 ○ 小学生の被害が多いことを知り、問題の意識化を図る。 |
| 展開 | 2 小学生が被害を受けている事件には特徴があることを知る。 3 小学生が被害にあっている時間帯や場所に共通点があるかどうか話し合う。 4 自分の体のプライベートゾーンについて知る。 5 性的な被害を受けそうになったら、どうしたらよいか考え、発表する。(ロールプレイング等) | ○ 警察の統計をグラフ化する。 ○ 犯罪の特徴がはっきり分かるように黒板に示す。 ○ 子どもが犯罪に巻き込まれる「時間や場所に共通したもの」を見つけられるように助言する。 ○ その時間帯やその場所で事件が起こる理由を考えさせ発表させる。 ○ プライベートゾーンは自分だけのものであり嫌なものは嫌と主張してよいことを理解させる。 ○ 水着をつけて隠しているところは、人前で出したり見せたりしないことを伝える。 ○ 危険な時間や場所に気をつける、大きな声で助けを求める、大人に知らせる等を押さえる。 ◇ 話し合ったことや聞いたことをもとに、性被害を防止する方法を考え、自分の意見を発表することができたか。 |
| 終末 | 6 性被害の防止についての話し合いを振り返り感想等を記入する。 | ○ 今後実践していきたいことを記述させ、実践意欲が高まるようにする。 ○ 「いかのおすし」を毎日の生活の中で意識させる。 |

(3) 事後の活動

| 児童の活動内容(活動の場) | 教師の支援(○)・評価(◇) |
|---|---|
| ・ 本時の話し合いをもとに、各自が日常の生活の中で実践する。 (登下校時、随時) | ○ 授業で用いた資料を提示し、自分のめあてが達成できているか適宜問いかける。 ◇ めあてに沿って自分の身を守る行動をとろうとしているか。 |